

協同の発見

きょうどうのはっけん



第264号 2014.11

特集

協同労働の協同組合の学びを深める場づくりとは ～市民社会の主体者・変革者として

- ◎2013年度地域労協リーダー基礎研修の学びの評価について 相良 孝雄
- ◎どうすれば組合員が地域で豊かな仕事をおこす協同労働の達人になれるのか
 - 協同労働定着化プログラムをみんなの手でつくりあげよう -
 田中 羊子/星平 順子/横林 加代子/岩田 雅弘/佐々木 あゆみ
- ◎「協同労働定着化プログラム」インタビュー 田中 羊子

■海外レポート

- ◎イギリスにおける労働者協同組合の現状事例 ①Unicorn Grocery 松本 典子
- ◎フランス協同組合一般法の改正 島村 博

■報告

東海協同集会

- ◎2014協同集会in東海 地域で発見「協同ってなに？」 橋本 吉広
- ◎無縁社会・老人漂流社会をこえて～見出す希望・絆～ 板垣 淑子

一般社団法人 協同総合研究所

JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

■ 巻頭言

- 協同労働で仕事おこしと地域づくりを ～無茶々園のリーダー研修を通じて～
大津 清次(地域協同組合 無茶々園 専務理事/会員) 2

■ 特集 協同労働の協同組合の学びを深める場づくりとは～市民社会の主体者・変革者として

- ・大学生からみたときの協同組合・ワーカーズコープとは(協同組合論の講義の感想文より)
相良 孝雄(協同総合研究所/会員) 5
- ・2013年度地域労協リーダー基礎研修の学びの評価について
相良 孝雄(労協連未来人材育成プロジェクト/会員) 11
- ・どうすれば組合員が地域で豊かな仕事をおこす協同労働の達人になれるのか 30
 - 「協同労働定着化プログラム」をみんなの手でつくりあげよう-
 コーディネーター 田中 羊子(労協センター事業団 専務理事/会員)
 コメンテーター 星平 順子(労協センター事業団九州・沖縄事業本部 副本部長/会員)
 パネリスト 横林 加代子(労協センター事業団 きっずクラブ豊北事業所)
 岩田 雅弘(労協センター事業団 きらっと地域福祉事業所)
 佐々木あゆみ(労協センター事業団 苫小牧まちづくり地域福祉事業所)
- ・「協同労働定着化プログラム」パネルディスカッションを踏まえての追加寄稿 43
 - 横林 加代子(労協センター事業団 きっずクラブ豊北事業所)
 岩田 雅弘(労協センター事業団 きらっと地域福祉事業所)
 佐々木あゆみ(労協センター事業団 苫小牧まちづくり地域福祉事業所)
- ・「協同労働定着化プログラム」インタビュー
田中 羊子(労協センター事業団専務理事/会員) 51

■ 海外レポート

- ・[連載第1回] イギリスにおける労働者協同組合の現状事例①Unicorn Grocery
松本 典子(駒沢大学経済学部准教授/会員) 55
- ・フランス協同組合一般法の改正
島村 博(協同総合研究所主任研究員/会員) 63

■ 報告

東海協同集会

- ・2014協同集会in東海 地域で発見。「協同ってなに？」
橋本 吉広(集会実行委員/協同総合研究所常任理事/会員) 91
- ・開会挨拶 永戸 祐三(日本労協連理事長/会員) 102
- ・記念講演 無縁社会・老人漂流社会をこえて～見出す希望・絆～
板垣 淑子(NHK大型企画開発センター チーフプロデューサー) 106

■ 協同の広場

- 協同労働の協同組合の仲間づくりと協同の発見によせて
都留 芸(釧路地域福祉事業所/会員) 114

- 労協連だより 田嶋 康利(会員) 118

- 研究所だより 楠野 晋一(会員) 120

巻頭言

協同労働で仕事おこしと地域づくりを ～無茶々園のリーダー研修を通じて～

大津 清次(地域協同組合無茶々園専務理事)

無茶々園は愛媛県西予市明浜に1974年農業後継者の無農薬実験園地として誕生しました。実験を重ねながら伊予柑の無農薬栽培でも農業経営ができると自信をもち、1976年ごろから自分たちの園地に広げてきました。40年かかり、113haのみかん山が無茶々園栽培の園地となり、旧明浜町(現西予市)全園地の約3割、メイン集落である狩浜地区では約7割が無茶々園栽培の園地となりました。

設立者である片山元治の教えは、「エコロジカルな町づくりをしながら食や環境問題に自らが取り組むことだ。そして、みかんを売るな、過程を売れ、田舎の良さを発信せよ」と言い続けてきました。無茶々園の事業・運動は学生運動から生まれた世の中を変えよう、変革しようという団塊の世代の共感から生まれた運動・事業でありました。無茶々園の事業・運動と生協運動・消費者運動が合わさり、無茶々園の今日があったと言えます。また1995年から日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会(以下労協連)に参加をしています。

設立当初、販売先を求めて、訪問した日

本有機農業研究会の一楽照男会長に教わった(怒られた)ことは「農産物を買ってくれとは何事ぞ。有機農業運動(産直)とは、生産者と消費者がお互いに理解し合って始めて成立するのであって、買う・買わんの問題ではない」と。労協連の経営のあり方である「共感の経営」は無茶々園では1996年に始まったのです。生産者自身も安全・安心なものを食すること、そして環境問題への取り組み、世の中をよくする運動、町づくりをしていくことを大切にしました。そのような経過もあり、「無茶々園は環境破壊を伴わず、健康で安全な食べ物の生産を通して、真のエコロジカルライフを求め、町づくりを目指す運動体です。」を無茶々園の理念としています。

私自身、一昨年から労協連の地域労協リーダー基礎研修を企画するメンバーになり、研修、学習の必要性を感じました。特に、無茶々園のような地域が限定され、組織の運営の仕方や理念が凝り固まっている組織は殻を破りにくく、新しい考え方を取り入れにくいと感じていました。若いメンバー

を送り出す中で、他の組織のメンバーと組織の在り方や自分自身の生き方を語る中で少しずつではありますが、変わったような気がしていました。特に、昨年からは無茶々園の若い役員クラスを研修に送り出すことで、労働者協同組合、協同労働がどのような働き方なのか、無茶々園の働き方とどう違うのか、町おこしにどう有効であるのかに気が付いたメンバーもいます。しかし年3回、6日間での研修だけでは忘れさられることも事実でした。そこで今年度は、研修に参加した2名のメンバーが中心となって無茶々園版リーダー研修会を開催しました。

無茶々園リーダー研修の趣旨としては以下のように考えました。

『事業の拡大による職員増加で分業化が進み、一人の職員の仕事の影響は組織全体で少なくなりつつある。そのため無茶々園が持つ企業理念を感じて仕事が出来ずに、「仕事」でなく「作業」を行う体制に向かっている。そこで再度、無茶々園の理念を確認し、「協同労働」とはどんな働き方か、組織の成長と人の成長が無茶々園の成長にどう強化されるのか、組織で全体化できるような次世代のリーダー養成を図ること』を目的にしました。

リーダー研修の第1回目は、「無茶々園の歴史を学ぶ」をテーマに、歴代会長5名を呼んで設立当初のビデオを見ながら、な

ぜ無茶々園ができたのかを学びました。そして、無茶々園のこれからの展望を私が講義しました。第2回目は稲盛和夫さんの講演録「人は何のために生きるのか」「磨け人間力」を読んで「リーダーとは何か」「トップダウンではないのか」「協同労働との違い」などを話し合いました。第3回目は、「ワーカーズ・協同労働の招待」を職員全員で見た上で、労協連の古村伸宏専務理事の講演を聞きました。翌日は協同労働を深める分散会を行いました。

開催してみて感じたことは、まだまだ日常的なコミュニケーション不足を感じたことや働く仲間1人ひとりに多くの考え方があることを感じました。みんなをどう活かすか、みんながやる気になることが私の仕事だと強く感じました。協同労働の協同組合、協同労働の株式会社、協同労働の持つ主体性・共感性・連帯性をどう理解し、この1年間で定期的にリーダー研修を開催し、無茶々園の活性化、明浜の町づくりに活かせる組織づくり、人づくりをしていきたいと考えています。

今年の無茶々園のスローガンは「設立40年の節目の年、設立当初の理念を再確認し、10年後、20年後を見据えた事業・運動を考えよう。依存から自立へ、再チャレンジの年としよう。そして種まき活動を起こそう」です。人材育成も事業も田舎は10年単位でしか成果は上がらない、そう自分に言い聞かせながらがんばりたいと思っています。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合(ワーカーズコープ)への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。